

つねこ
倉田 常子 さん

小物屋かぬ
秋田市将軍野南5-11-10
TEL.090-6453-9008
<https://www.kanu2009.com>
https://www.instagram.com/komonoya_kanu



かつての花嫁衣装、亡き家族の形見、思い出の一着…。古布に刻まれた歴史や味を大切に、再利用してよみがえらせる。今は教室「あきたてまりの会」を開く他、作品や和小物、布端切れなどを販売する小物屋を開いて、つるし飾り作りの魅力を広めている。娘や孫、親しい人などの子の誕生祝いに作る人もいるという。

写真の「五弁の七宝まり」は、無限の連鎖を表して人の縁がどこまでもつながっていくことを願う縁起物。つるし飾りを通して倉田さんの人の輪、ものづくりの縁は大きく広がっている。



私のギャラリー

My Gallery

KURATA TSUNEKO

つるし飾り



五弁の七宝まり

幸せへの願いを込めて

「めでたい」の「鯛」、長寿の「鶴」、子宝や安産の象徴「犬」など、小さな飾り一つ一つに意味があり、健やかな成長、長寿、良縁などを祈って桃の節句に飾った「つるし飾り」。静岡県東伊豆町稲取地区の伝統工芸で、江戸時代に地域で女の子が生まれると近所の女性たちが人形を作って持ち寄り、それらをつるし飾りとして初節句の祝い品としたという。高価なひな人形の代わりに庶民の間で行われた風習だ。

その素朴な美しさ、人形作りの楽しさに魅せられて8年。倉田常子さんは、退職後の生きがい、新たな仕事にとつるし飾りを作り始めて夢中になった。小さな端切れを縫い合わせて作る飾りや人形の種類は100あるといわれ、一つ一つ作り方を覚えることに達成感を感じた。布地は主に着物をほどこいた古布を使う。色とりどり、手触りも経年変化も異なる小さな端切れ。「色や柄を見てどれとどれを組み合わせるか考える時間が一番好き」と輝くような笑顔で話す。子どもの古着、